

# ET・IoT Technology名古屋セミナー開催報告



ET事業本部と中部支部は、去る2月16日(金)、情報処理推進機構(IPA)との共催により、「ET・IoT名古屋セミナー」を開催いたしました。

ET・IoTの新たなコンセプトである「エッジテクノロジー(ET)」の普及高度化と地域産業振興を目的に、自動車・FA等を中心に高度な技術力を有する企業が集積する名古屋地区にて、最新の技術トレンドなど厳選した10テーマ構成にて実施したものです。

事前登録時より満席になるセッションも多く、予想を上回る、延べ1,075名の受講者が訪れ、各セッションとも熱心な聴講者で溢れました。また、会場内では、中部支部メンバーによる展示、IPAの成果物としてSTAMP支援ツールのデモ等も行われました。

協会としても、横浜・大阪に続き、来年2月に「ET・IoT Technology名古屋」を計画しており、今回その布石として盛況裡にセミナーを実施できたことで、更に事業拡大を狙っていく良い機会となりました。

## ET・IoT名古屋セミナー プログラム

### 『IoT、AI政策の動向について』

中島 真一郎氏 中部経済産業局

次世代産業課長 兼 情報政策室長

### 『IoT時代の車載組込みシステムの動向と課題』

高田 広章氏 名古屋大学

未来社会創造機構／情報学研究科 教授

### 『STAMP支援ツール"STAMP Work-bench"のご紹介』

岡村 敏弘氏 (株)チェンジビジョン

事業プラットフォーム部長

### 『STAMP/STPA概要紹介』

石井 正悟氏 IPA SEC 調査役

### 『高度な電子制御を実現する次世代プロセッサー創生』

新見 幸秀氏 (株)デンソー エグゼクティブアドバイザー／(株)エヌエスアイテクス 代表取締役社長 兼 CEO

### 『e-F@ctoryと知能化ロボットが実現する次世代自動化』

荒井 高志氏 三菱電機(株) 名古屋製作所 ロボットテクニカルセンター長

### 『協調安全を目指すSafety2.0の全貌』

中村 英夫氏 日本大学 理工学部 特任教授

### 『アジャイルと派生開発手法の活用による開

### 発改善について』

JASA中部支部 アジャイル研究会

### 『IoT時代のセキュリティとセーフティを実現する機能とアーキテクチャ』

森崎 修司氏 名古屋大学 大学院情報学研究科 准教授

### 『機器の新たな価値を創造する「IoT × AI」』

岡ノ谷 国典氏 日本電気(株)

サービス・テクノロジー本部コネクティビティソリューションセンター シニアマネージャ

### 『ドイツPEGASUSプロジェクトにおける自動運転機能の安全性評価法の標準化動向』

菅沼 賢治氏 公益社団法人自動車技術会 電子電装部会 部会長

# ET東北セミナー開催報告

3月7日(水) 東北大大学百周年記念会館川内萩ホール

2月の恒例行事となっている東北でのETセミナーは、今年は3月の開催となりました。

マシンインテリジェンス研究会、NEC東北支社とJASA東北支部が共催して、東北大大学百周年記念会館 川内萩ホールという立派な場所をお借りしてたくさんの方々にお越しいただきました。

「新しい街づくりと次世代IoTプラットフォーム」

NEC 未来都市づくり推進本部

マネージャ 村田 仁氏

最初の講演では、NECの提案する次世代のIoTプラットフォーム「FIWARE」を活用した様々なスマート社会向けた取り組みのご紹介がありました。



挨拶に立つ  
東北支部 水野支部長

特にヨーロッパやニュージーランドなど海外での事例は都市のスマート化に対する各国の熱の入れようとその実現レベルの高さに驚きました。

スペインのサンタンデール市は世界最大規模の12,000個のセンサーを街中に配置し、街全体を俯瞰することで、ごみ収集の効率化や駐車スペースの情報発信、水の節約などといった新しい都市サービスにつ

なげているそうです。

「AIサービスの利用・開発とIoTに組込む実践方法」

日本マイクロソフト コマーシャルソフトウェアエンジニアリング本部  
テクニカルエバンジェリスト 太田 寛氏

太田さんは東北出身でかつ組込みも分かるエバンジェリストということで、この東北セミナーには2回目の登場です。

マイクロソフトのプラットフォームを活用してAIサービスを利用し、IoTシステムを構築するイメージを分かりやすく伝えていただきました。

全国各地でハンズオンによるセミナーやトレーニング、PoCを数多く仕掛けている太田さんですので、ハードウェアがどんなに入

手しやすくなったか、プラットフォームでできることがどれだけ増えているかなど、ここ数年での変化の激しさへのコメントには説得力があります。「デバイスのサブスクリプションモデル」という話は大変興味深く聞きました。

「IoTに貢献するアルプスの電子部品」  
アルプス電気 技術本部 技術企画室  
遠藤広明氏、白坂剛氏

東北、いや日本を代表するセンサーモジュールメーカーであるアルプス電気の非常に幅広いセンサーラインアップが実感できるプレゼンテーションでした。

白眉は終盤に出現します。

幅広いラインアップの特長を見事に「精度/粒度」と「レンジ」という2軸であぶり出



会場風景

しただけではとどまらず、お客様の欲しがるセンサーデバイスとお客様が本当に捉えた現象が異なることが多い、という話はまさにセンサーをソリューションビジネスの視点で切り取ったもので、IoTシステムに最も必要とされる商談のスタイルだろうな、と思わせるものでした。